

フルニキシンメグルミン注射液

非ステロイド系解熱・鎮痛・消炎剤

フォーベット® 50 注射液

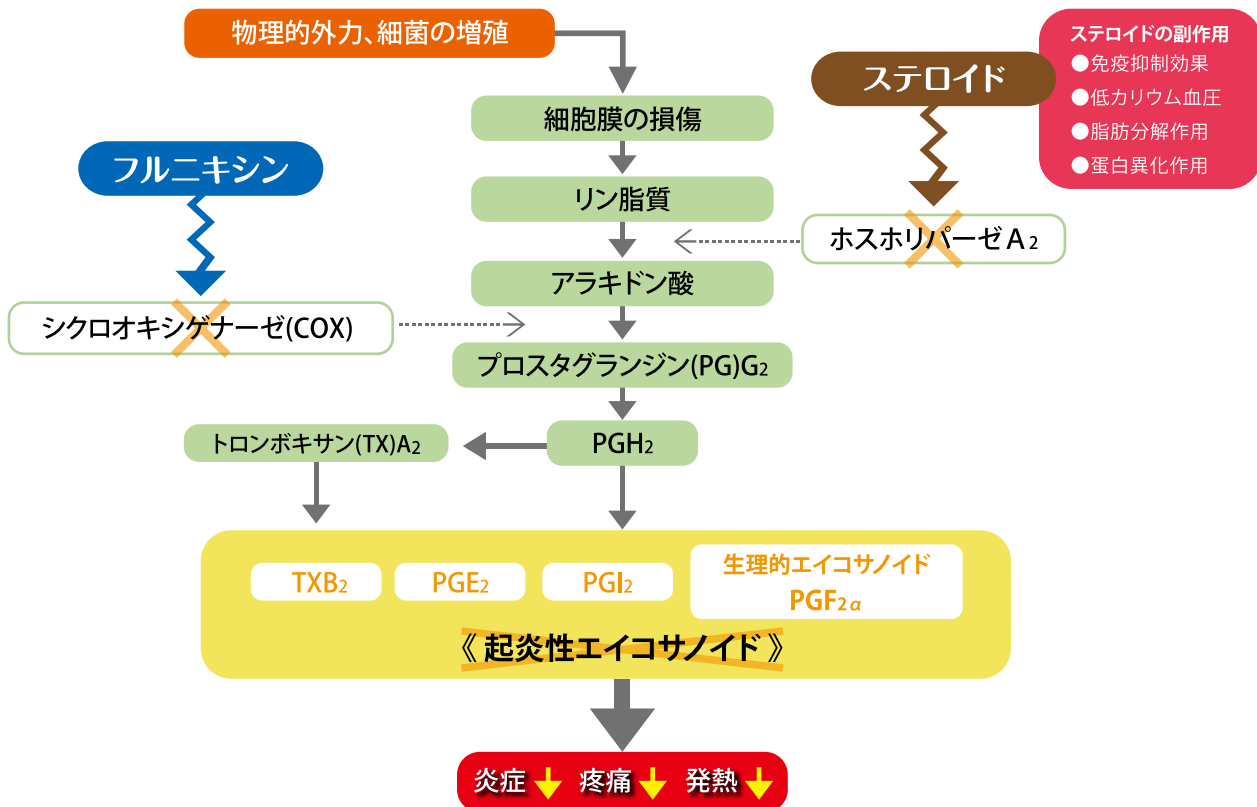
- ✓ 細菌性肺炎を発症した牛及び豚の解熱及び消炎に
- ✓ 牛の急性乳房炎の解熱に



The Science of Healthier Animals™

MSDアニマルヘルス株式会社は、動物の健康、福祉、そして生産性の向上に役立つよう力を注いでいます。

アラキドン酸カスケードにおけるNSAIDsの作用機序

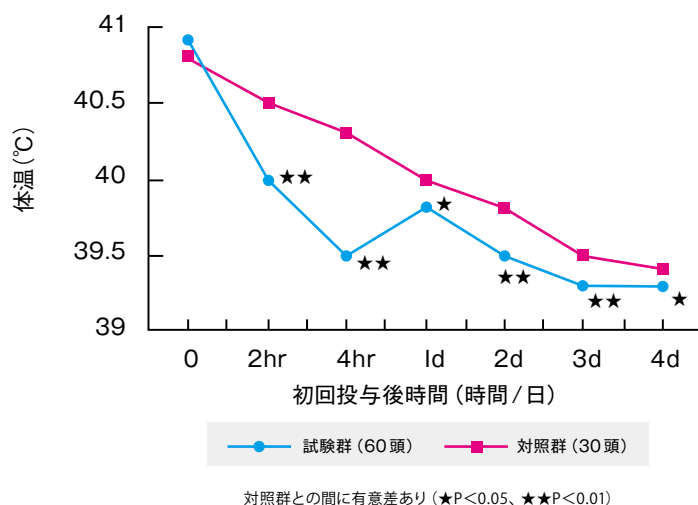


豚：細菌性肺炎 (承認申請資料)

【臨床試験】

試験は体温が 39.5℃以上で呼吸状態の異常（速拍又は困難）な細菌性肺炎が観察された豚 90 頭（平均 35.5kg、試験群 60 頭、対照群 30 頭）を用いて行った。

試験群：抗菌剤＋フォーベット® 50 注射液（用法用量通り）、対照群：抗菌剤のみ



【有効性の評価】

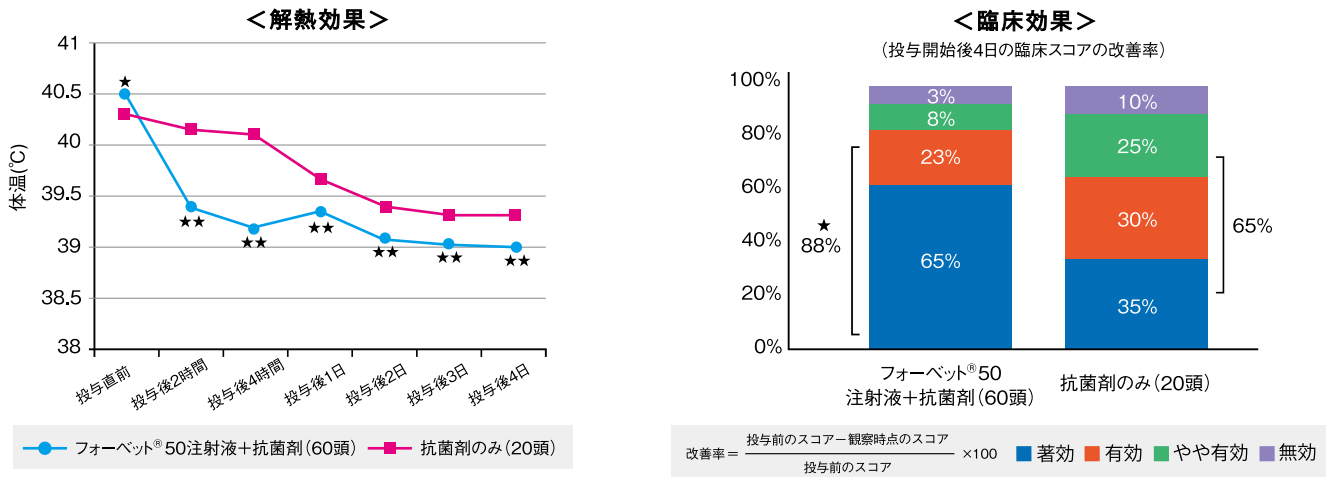
試験群の体温は、薬剤投与後に測定した全時点において対照群よりも有意に低下しました。また、フォーベット® 50 注射液投与後 2 時間から低下しており効果が現れるのが早いことが認められました。

フォーベット®50 注射液

牛：細菌性肺炎（承認申請資料）

【臨床試験】

体温40℃以上の細菌性肺炎罹患牛（80頭）に対するフォーベット®50 注射液の解熱および臨床効果について、調査しました。



★：抗菌剤のみ投与群との間に有意差（P<0.05 あり） ★★：抗菌剤のみ投与群との間に有意差（P<0.01 あり）

【有効性の評価】

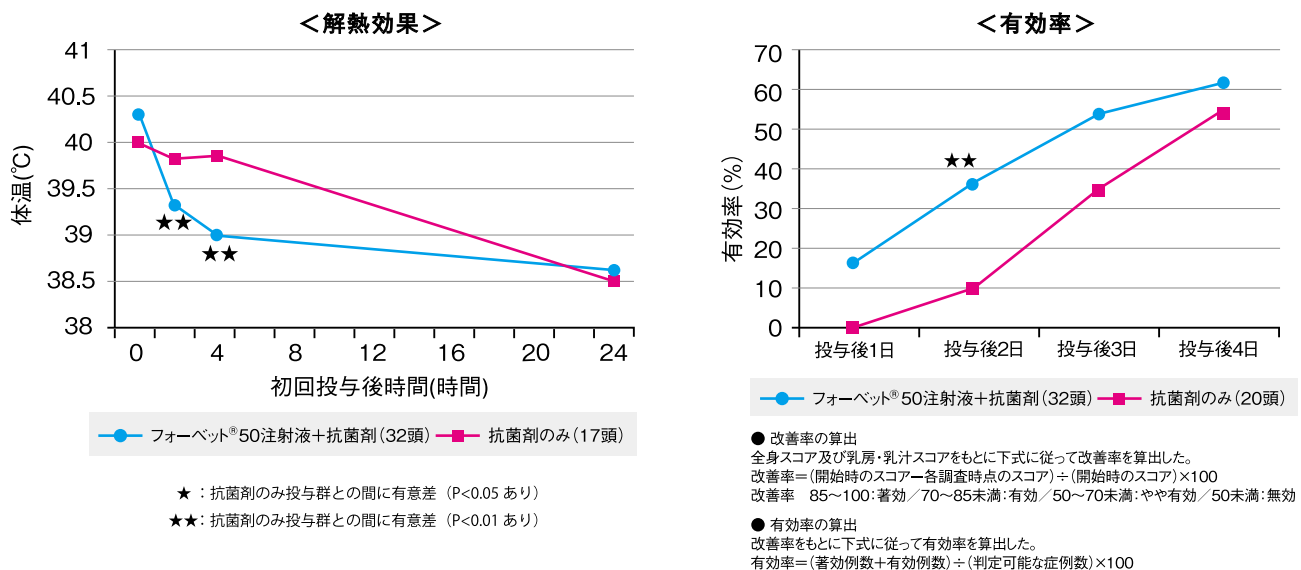
抗菌剤とフォーベット®50 注射液を併用する事により体温が速やかに低下しました。
また、投与後4日の臨床スコア改善率において、抗菌剤のみに比べて優位な改善が認められました。

牛：急性乳房炎（承認申請資料）

【臨床試験】

体温39.5℃以上で全身症状、乳房所見および乳汁所見から急性乳房炎と診断された牛（49頭）の解熱および臨床所見有効率について調査しました。

フォーベット®50 注射液は、用法及び用量通りに投与しました。また、平均投与回数は1.6回／頭でした。



【有効性の評価】

抗菌剤とフォーベット®50 注射液を併用する事により体温が速やかに低下しました。
また、有効率が抗菌剤のみに比べて高く推移し、投与後2日において有意な差が認められました。